



2020年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2020年2月6日

上場会社名 株式会社Ubicomホールディングス 上場取引所 東
 コード番号 3937 URL <http://www.ubicom-hd.com/>
 代表者 (役職名)代表取締役社長 (氏名)青木 正之
 問合せ先責任者 (役職名)戦略企画本部長 (氏名)八田 真資 (TEL) 03(5803)7339
 四半期報告書提出予定日 2020年2月6日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2020年3月期第3四半期の連結業績(2019年4月1日～2019年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2020年3月期第3四半期	2,939	14.2	487	15.7	486	12.0	335	12.7
2019年3月期第3四半期	2,573	10.1	420	92.7	434	111.2	297	162.9

(注) 包括利益 2020年3月期第3四半期 362百万円(11.6%) 2019年3月期第3四半期 324百万円(136.1%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2020年3月期第3四半期	29.15	28.25
2019年3月期第3四半期	26.39	25.36

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2020年3月期第3四半期	3,624	2,028	56.0
2019年3月期	3,093	1,690	54.6

(参考) 自己資本 2020年3月期第3四半期 2,027百万円 2019年3月期 1,690百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2019年3月期	—	0.00	—	5.00	5.00
2020年3月期	—	0.00	—		
2020年3月期(予想)				—	—

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2020年3月期の連結業績予想(2019年4月1日～2020年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	4,021	13.1	671	19.0	710	20.1	443	20.3	38.38

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無

(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)

新規 一社(社名) 、除外 一社(社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	2020年3月期3Q	11,648,000株	2019年3月期	11,483,360株
② 期末自己株式数	2020年3月期3Q	91株	2019年3月期	54株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	2020年3月期3Q	11,519,517株	2019年3月期3Q	11,285,386株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	9
(会計方針の変更)	9
(セグメント情報等)	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

①経営成績

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、企業収益の回復や雇用・所得環境の改善により緩やかな景気回復基調で推移してまいりましたが、通商問題が世界経済に与える影響など海外情勢の不確実性や地政学的リスクの高まり、相次ぐ自然災害の影響などにより、依然として先行き不透明感は払拭できない状況が続いております。

このような環境のもと、当社の属する情報サービス産業におきましては、ビッグデータ、IoT、人工知能(AI)等のIT技術革新が加速的に発展し、市場の拡大が引き続き見込まれる一方で、国内でこれらの開発を担う人材の不足が懸念されております。

このような状況の中、グローバル事業においては、主にフィリピンでの開発拠点を活用したITソリューション開発事業を展開しており、「ソフトウェアテストあるいは製造ラインの検査工程の自動化(Automation)」「ビッグデータと分析(Analytics)」「人工知能(AI)」等のコア技術を活かし、自動車、金融、医療、製造業および小売・サービス業等に向けコアソリューションを提案しております。さらに、既存の主要顧客や高度な新ソリューションに係る受注拡大を背景に、前第2四半期会計期間より、積極的な新規採用、即戦力としての中途採用に加え、プロジェクトマネジメントを担う人材や、AI・データサイエンティスト等の高度人材投資を本格化、将来の更なる事業拡大に向けた取組みに邁進しております。

メディカル事業においては、医療機関向けレセプト点検ソフトウェア『Mighty』シリーズのシェア拡大に向けた取組みを継続しております。2018年10月に発売を開始した「MightyChecker®EX」の引き合い・販売も大手医療機関を中心に好調に推移し、レセプト点検ソフト「MightyChecker®」シリーズ、オーダーリングチェックソフト「Mighty QUBE®」に代表されるストック型ビジネスを、盤石な収益基盤として確立しております。さらに、クラウドコンピューティングを活用したレセプト点検の推進や、学会や健保組合等へのデータ分析事業の取組みを実施するなど、『Mighty』シリーズに併せて事業ポートフォリオの構成を変革したことにより、高収益モデルを確立、更なる収益率向上を目指してまいります。

また、当社の事業戦略のスローガンの1つである「協業企業様との投資を介したWin-Winインベストメントモデル」の実現に向けた投資活動も引き続き積極的に展開しており、当社ソリューションの米国におけるマーケティング推進や、米国の最新ITトレンドへのアクセスと当事業への取組みを目的とし、米国IT先端企業を投資対象とするファンド「GoAhead Ventures」への出資を実施いたしました。今後も検討・交渉している国内外における複数の協業案件の早期実現および新たな事業ピラーの構築を目指し、継続的な成長戦略を推進してまいります。

この結果、当第3四半期連結累計期間の業績は、売上高2,939,778千円(前年同四半期比14.2%増)、営業利益487,048千円(前年同四半期比15.7%増)、経常利益486,889千円(前年同四半期比12.0%増)、親会社株主に帰属する四半期純利益は335,782千円(前年同四半期比12.7%増)となりました。

セグメントの業績を示しますと、次のとおりであります。

a. グローバル事業

・グローバル部門

グローバル部門においては、ソフトウェアテストあるいは製造ラインの検査工程の自動化や組み込み開発、アプリケーション開発分野において、レノボ社に代表される、フィリピンおよび日本における既存のピラー顧客からの受注が大きく伸びました。また、大手コンピューターゲーム開発・製造会社や大手商社など、今期より開始した新規顧客の受注も引き続き堅調に推移し、さらには自動車産業や小売サービス業における、業界を代表する大手顧客を中心に新規顧客も増加しており、これら新規クライアントのピラー化・サブピラー化に向けた取組みを強化しております。また、ソフトウェアテストあるいは製造ラインの検査工程の自動化やAI・分析、モバイル&クラウド等の当社コア技術を搭載した独自エンジンをアセット化しており、引き続きこれらソリューションの横串的展開も継続、推進しております。

中国においては、既存顧客との関係強化による受注は好調に推移しており、引き続きコア技術を活かしたソリューション提案を含めた案件を獲得し、収益力の向上を図ってまいります。米国においては、今後の売上拡大を目指した積極的な営業活動を継続し、また、この度の「GoAhead Ventures」への出資、同社のネットワークを活用することにより、中長期的な連結業績および企業価値向上に取り組んでおります。

・エンタープライズソリューション部門

エンタープライズソリューション部門においては、金融セクターを中心とした既存案件の堅調な状況が継続、加えて公共インフラセクター等の案件も順調に拡大しております。これまで日本における上流を含めたプロジェクト経験の積み上げや、中途を含めた積極的な人材投資効果が奏功し、売上・利益ともに前年同期比を大幅に上回って推移しており、当社グループの成長戦略に沿った取り組みを継続しております。

引き続きグローバル事業の両部門において、盤石な既存事業のキャッシュを、拡大する受注案件や新規ソリューションの開発、さらには優秀な人材の積極的な採用・投資に振り向けることにより、今後更なる成長を見据えた戦略の実現を目指してまいります。

以上の状況による既存の主要顧客の売上高の伸長に加え、効率的なアサインによる稼働率の向上と機会損失の回避、収益性の高い高度な新ソリューションに係る受注拡大が、増大する開発需要に対応するための人員強化に関する支出の増加を吸収し、セグメント利益は計画を上回る水準で推移しております。

この結果、グローバル事業の売上高は1,987,080千円（前年同四半期比21.3%増）、セグメント利益は351,785千円（前年同四半期比18.5%増）となりました。

b. メディカル事業

メディカル事業においては、子会社である株式会社エーアイエスの主力製品であるレセプト点検ソフト「MightyChecker®」およびオーダーリングチェックソフト「Mighty QUBE®」の導入医療機関数が順調に拡大しております。また、2018年10月に戦略的商品である、次世代レセプトチェックシステム「MightyChecker®EX」のローンチを行い、売上トップクラスの大手中グループ内病院を含む多数の引き合いをいただいております。医療グループ内病院をはじめ導入数は堅調に推移しております。これら大手医療グループ内における横展開に加え、「直接販売の推進」および「マーケティング強化」を目的とした複数の金融機関との連携を開始しており、更なる収益率向上の実現に向けた施策に取り組んでまいります。

このように、医療の効率化や病院の経営改善ニーズの高まりを背景に、レセプト点検ソフトウェア市場におけるリーディングカンパニーとして、サブスクリプションモデルによる盤石な収益基盤が構築されたことに伴う利益の増加が、開発や人員強化、さらには生損保等の新領域に向けた新ソリューションなどの戦略的投資に伴う支出の増加をこなし、セグメント利益は計画を上回る水準で推移しております。

利益面につきましては、盤石な高収益構造の確立と、プロジェクト毎の徹底した収益管理及び継続的なコスト削減、戦略的案件以外の、利益率の低い受託案件の絞り込み等による外注費の削減等が奏功し、売上高セグメント利益率が44.2%と、収益性が大幅に改善いたしました。

この結果、メディカル事業の売上高は952,697千円（前年同四半期比1.8%増）、セグメント利益は420,710千円（前年同四半期比18.9%増）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

② 財政状態の分析

(資産の部)

当第3四半期連結会計期間末における流動資産は2,938,149千円となり、前連結会計年度末に比べ405,791千円増加しました。これは主に、現金及び預金が294,475千円、受取手形及び売掛金が9,284千円、仕掛品が25,671千円、流動資産のその他に含まれる前払費用が16,956千円、未収入金が15,995千円増加したことによるものであります。固定資産は686,028千円となり、前連結会計年度末に比べ124,823千円増加いたしました。これは、有形固定資産が276千円、無形固定資産が77,343千円、投資その他の資産が47,204千円増加したことによるものであります。

(負債の部)

当第3四半期連結会計期間末における流動負債は1,319,920千円となり、前連結会計年度末に比べ109,166千円増加しました。これは主に、賞与引当金が34,888千円減少したものの、短期借入金が100,000千円、リース債務が31,886千円、前受金が83,490千円増加したことによるものであります。固定負債は276,177千円となり、前連結会計年度末に比べ83,736千円増加いたしました。これは主に、長期借入金が12,969千円、退職給付に係る負債が7,553千円減少したものの、リース債務が71,001千円、固定負債のその他に含まれる繰延税金負債が33,197千円増加したことによるものであります。

(純資産の部)

当第3四半期連結会計期間末における純資産は2,028,079千円となり、前連結会計年度末に比べ337,712千円増加いたしました。これは主に、新株予約権の行使により資本金及び資本剰余金がそれぞれ16,431千円、親会社に帰属する四半期純利益の計上と配当金の支払により利益剰余金が278,365千円増加したことによるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

連結業績予想につきましては、2019年5月15日の「2019年3月期 決算短信」で公表しました通期の連結業績予想に変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2019年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,637,245	1,931,720
受取手形及び売掛金	553,996	563,281
仕掛品	21,043	46,714
その他	323,802	400,134
貸倒引当金	△3,729	△3,701
流動資産合計	2,532,358	2,938,149
固定資産		
有形固定資産	72,474	72,751
無形固定資産		
ソフトウェア	79,439	56,114
使用権資産	—	100,668
無形固定資産合計	79,439	156,782
投資その他の資産	409,289	456,493
固定資産合計	561,204	686,028
資産合計	3,093,562	3,624,178

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2019年12月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	39,139	49,047
短期借入金	100,000	200,000
1年内返済予定の長期借入金	20,848	18,204
リース債務	—	31,886
未払法人税等	82,722	83,718
前受金	645,766	729,257
賞与引当金	46,838	11,950
その他	275,438	195,856
流動負債合計	1,210,754	1,319,920
固定負債		
長期借入金	15,061	2,092
リース債務	—	71,001
退職給付に係る負債	75,546	67,993
資産除去債務	7,284	7,343
その他	94,549	127,747
固定負債合計	192,441	276,177
負債合計	1,403,195	1,596,098
純資産の部		
株主資本		
資本金	724,353	740,784
資本剰余金	628,969	645,400
利益剰余金	477,509	755,874
自己株式	△54	△106
株主資本合計	1,830,777	2,141,952
その他の包括利益累計額		
為替換算調整勘定	△118,054	△91,306
退職給付に係る調整累計額	△22,622	△22,811
その他の包括利益累計額合計	△140,677	△114,117
新株予約権	267	244
純資産合計	1,690,366	2,028,079
負債純資産合計	3,093,562	3,624,178

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)
売上高	2,573,401	2,939,778
売上原価	1,445,398	1,673,199
売上総利益	1,128,003	1,266,578
販売費及び一般管理費	707,062	779,530
営業利益	420,941	487,048
営業外収益		
受取利息	423	1,227
貸倒引当金戻入額	3,988	9
持分法による投資利益	14,775	19,420
保険解約返戻金	9,658	5,016
その他	4,416	2,430
営業外収益合計	33,263	28,104
営業外費用		
支払利息	1,067	2,665
リース支払利息	—	7,344
為替差損	16,296	17,849
その他	2,043	403
営業外費用合計	19,407	28,262
経常利益	434,796	486,889
税金等調整前四半期純利益	434,796	486,889
法人税等	136,929	151,107
四半期純利益	297,867	335,782
非支配株主に帰属する四半期純利益	—	—
親会社株主に帰属する四半期純利益	297,867	335,782

四半期連結包括利益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)
四半期純利益	297,867	335,782
その他の包括利益		
為替換算調整勘定	25,757	26,748
退職給付に係る調整額	1,129	△188
その他の包括利益合計	26,887	26,559
四半期包括利益	324,754	362,341
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	324,754	362,341
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

前第3四半期連結累計期間(自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)

1. 配当金支払額

該当事項はありません。

2. 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

3. 株主資本の著しい変動

該当事項はありません。

当第3四半期連結累計期間(自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当の原資	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
2019年5月15日 臨時取締役会	普通株式	利益剰余金	57,416	5.00	2019年3月31日	2019年6月27日

2. 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

3. 株主資本の著しい変動

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

税金費用については、当第3四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(会計方針の変更)

当社グループの一部の海外連結子会社は、第1四半期連結会計期間より、国際財務報告基準第16号「リース」(以下「IFRS第16号」という。)を適用しております。これにより、リースの借手は、原則としてすべてのリースを貸借対照表に資産及び負債として計上することとしました。

IFRS第16号の適用については、経過的な取扱いに従って、第1四半期連結会計期間の期首において、累積的影響を適用開始日に認識する方法を適用しております。

この結果、当第3四半期連結会計期間末の四半期連結貸借対照表上、使用権資産として100,668千円が計上され、流動負債および固定負債のリース債務としてそれぞれ31,886千円、71,001千円計上しております。なお、当第3四半期連結累計期間の損益に与える影響は軽微であります。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			合計	調整額 (注1)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注2)
	グローバル 事業	メディカル 事業	計			
売上高						
外部顧客への売上高	1,637,593	935,808	2,573,401	2,573,401	—	2,573,401
セグメント間の内部 売上高又は振替高	27,531	1,161	28,692	28,692	△28,692	—
計	1,665,124	936,969	2,602,094	2,602,094	△28,692	2,573,401
セグメント利益	296,940	353,972	650,912	650,912	△229,971	420,941

(注) 1. セグメント利益の調整額△229,971千円は、主に報告セグメントに帰属していない一般管理費等の全社費用であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と一致しております。

当第3四半期連結累計期間(自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			合計	調整額 (注1)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注2)
	グローバル 事業	メディカル 事業	計			
売上高						
外部顧客への売上高	1,987,080	952,697	2,939,778	2,939,778	—	2,939,778
セグメント間の内部 売上高又は振替高	29,114	3,775	32,889	32,889	△32,889	—
計	2,016,194	956,473	2,972,667	2,972,667	△32,889	2,939,778
セグメント利益	351,785	420,710	772,495	772,495	△285,447	487,048

(注) 1. セグメント利益の調整額△285,447千円は、主に報告セグメントに帰属していない一般管理費等の全社費用であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と一致しております。